

平成 年 月 日現在

研究種目：若手研究（S）

研究期間：2007～2011

課題番号：19673001

研究課題名（和文） 明治日本の国家形成過程における条約改正

研究課題名（英文）

研究代表者

五百旗頭 薫（IOKIBE KAORU）

研究者番号：40282537

研究代表者の専門分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：政治学・政治史・条約改正

1. 研究計画の概要

明治日本の条約改正交渉を、さまざまな行政領域における国家形成と関連付けて解明する。

そのために、第一に各行政領域の研究者とともに議論・研究を行う。

第二に、国内外の史料館にて資料調査を行う。

2. 研究の進捗状況

(1) 条約改正研究

条約改正交渉の研究は大きく進展した。

英米の文書館で調査を行い、有益な資料を収集することができた。

これを分析し、研究協力者と討議した結果、既存研究が主として関心を注いで来た法典編纂のみならず、様々な行政領域における条約国公使・領事・居留民との交渉に着目し、これと関連させながら条約改正史の解明を進めることができた。

近く単著を刊行する。

(2) 行政史研究

上に述べたような外交政策や対外環境の中で、税関・検疫・水道・港湾といった様々な行政領域の形成や施策、相互の関係や異同

をどのように理解すべきかについて、各領域の専門家たる研究協力者が活発に討議し、総合的な知見を蓄積しつつある。

日本海岸や神戸といった地方での資料調査によって貴重な史料を入手することができた。

論文集の刊行を計画し、進めている。

今年秋の学会でのパネル報告を予定している。

(3) 研究史

研究史を辿る中で、条約改正史のように同時代から膨大な言説が蓄積され、様々な研究で扱われて来たテーマにおいては、狭義のサーベイでは耐久性のある問題視角は設定しえないことを痛感した。

(1)(2)で述べた知見を研究史の中で位置付け、さらなる方向性を見出すために、具体的には、吉野作造の講義録を入手したのを契機に、講義録研究会を結成し、講義録の翻刻・紹介を行った。

戦前以来、日本において国際政治と国家形成の関係がどのように理解され、その中で条約改正史がどのような位置づけにあったか

について、認識を深めることができた。

3. 現在までの達成度

資料収集はやや遅れ気味だが、分析は進展している。

4. 今後の研究の推進方策

特になし。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

(五百旗頭薫・伏見岳人)「吉野作造講義録(一)はじめに」『国家学会雑誌』121巻9・10号、2008年10月、61～70頁 吉野作造講義録研究会編「吉野作造講義録(一)」『国家学会雑誌』121巻9・10号、2008年10月、61～108頁。査読無

〔学会発表〕(計4件)

東京大学法学部政治史研究会にて報告 五百旗頭薫「明治日本の条約改正」(2月21日)

〔図書〕(計5件)

五百旗頭薫『条約改正 法権回復への展望』(有斐閣、近刊)

五百旗頭薫「第三章 隣国日本の近代化 日本の条約改正と日清関係」岡本隆司・川島真『中国近代外交の胎動』東京大学出版会、2009年4月、67～92頁

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕